

株式会社ワカヤマ DX推進ビジョン

2023年12月1日 策定

代表取締役 若山 健太郎



1. 生産状況の可視化

(1) BIツール活用による生産状況の共有

2. デジタル技術導入による生産性向上

(1) AIロボット導入による生産性向上

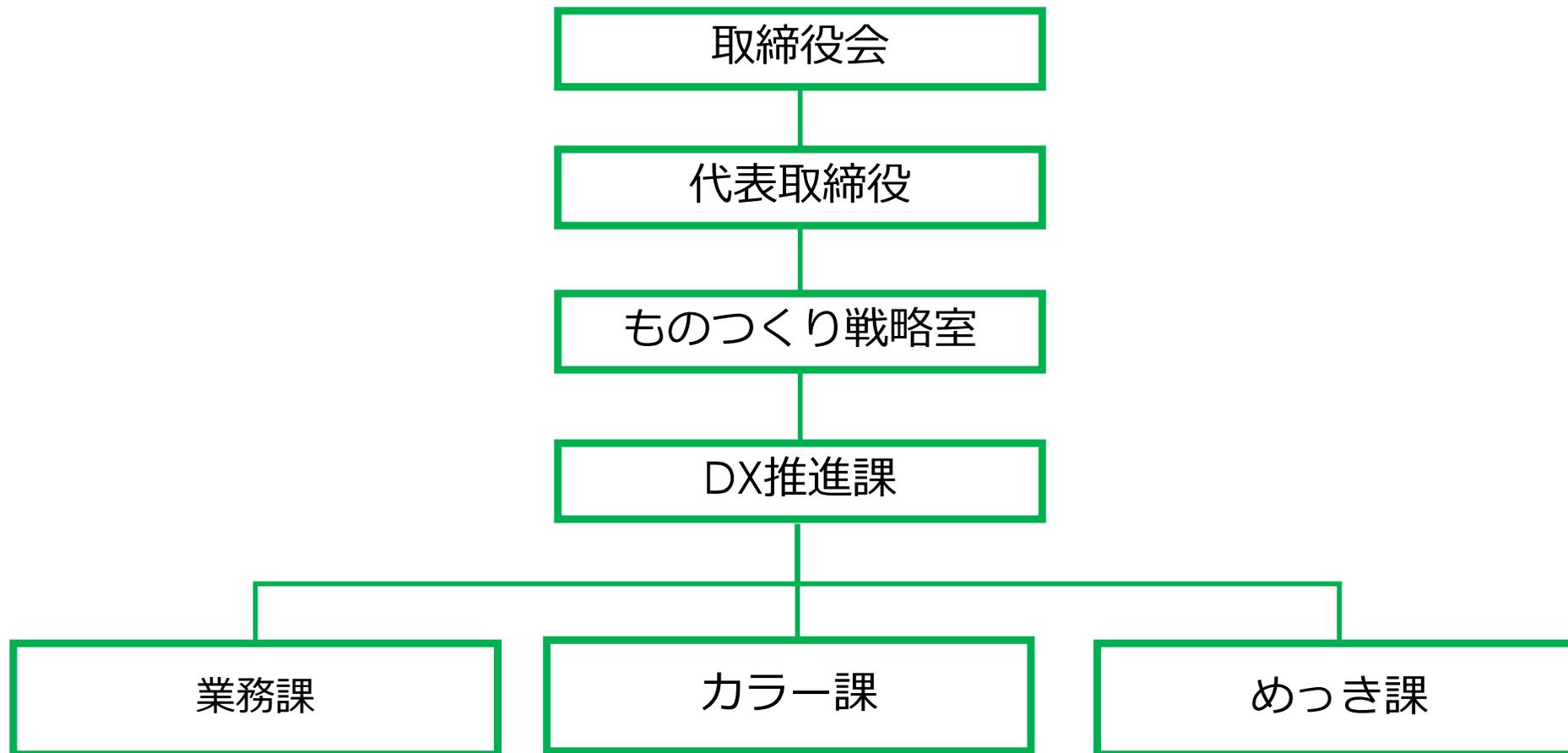
(2) 3Dプリンタ導入による開発時間の短縮

3. デジタル人材の育成

(1) iPad活用によるリアルタイムのノウハウ共有

DX推進の取り組み - DX推進強化における組織編制

2023年5月より、ものづくり戦略室にDX推進課を新設、クラウドサービスを活用し、迅速に課題解決を実現できる体制を構築しています。



1. 生産状況の可視化
2. デジタル技術による生産性向上
3. デジタル人材の育成

DX推進の取り組み－推進計画

DXビジョンに基づく推進項目

1. 生産状況の可視化

(1) BIツール活用による生産状況の共有

2. デジタル技術導入による生産性向上

(1) AIロボット導入による生産性向上
(2) 3Dプリンタ導入による開発時間の短縮

3. デジタル人材の育成

(1) iPad活用によるリアルタイムノウハウ共有

上記計画達成時の指標

1. 情報更新に伴うBIツール上でのデータ更新スピード
2. メガネ塗装におけるクリア塗装の人時生産性の向上
3. 社内開催のDXセミナー参加者の割合

1 時間以内

200%

7 割以上

DX戦略

生産状況の可視化

量産品の生産状況を可視化することで、材料の在庫不足などがなくなり、スムーズに生産ができるようになりました。また、不具合状況が可視化されたことで、早急に対策を打つことができ、品質向上に寄与しています。生産状況が共有できるようになったことで、個人のパフォーマンスも向上しました。

デジタル技術導入による生産性向上

AIロボットの導入により、今まで3名で行っていた仕事が、1名でも十分に完了できるようになりました。それにより、職人はさらに付加価値の高い仕事に専念できるため、収益率アップに繋がりました。3Dプリンタの導入により、まだサンプルすら製造できていない製品に対しても、正確に塗装ができるかの検討ができるようになり、顧客への対応スピードが向上しています。

デジタル人材教育

iPadを利用しクラウドサービスのアプリに情報蓄積することにより、製品作成時の注意点や手順を統一化・共通化しました。全従業員がAIやクラウドツールを活用して業務が行えるように、DX講習プログラムを作成し、デジタルリテラシーの高い人材を育成します。

DX推進の取り組み－環境整備の具体的方策

1. 生産状況の可視化

(1) BIツール活用による生産状況の共有

現場での生産管理状況が不透明という課題を解決するため、またアナログ業務をデジタルシフトする方法として、Googleの提供するBIツール（Looker Studio）を活用した可視化を行い改善を実施しています。

製品の生産数が落ちている、不具合品が出てしまっている状況等を製品の品番単位まで見えるように改善。また生産数が落ちている場合は、製品に使われている機械に不具合が起きているのではないかと原因追究も行えます。必要な情報を可視化出来ていることにより原因特定や不具合の発見が早く、解決への対策が迅速に行え常に改善に繋がるアクションが起こせています。

生産管理状況を可視化することで従来よりも品質の高い製品を提供できるよう日々改善を繰り返しております。

2. デジタル技術導入による生産性向上

(1) AIロボット導入による生産性向上

大量生産型の製品に対応するため、ロボットの導入を実施しました。

効果として生産性向上の実現と人員の適正配置を可能としました。

(2) 3Dプリンタの導入による開発時間の短縮化

新商品への塗装条件をいち早く検討するため、3Dプリンタの導入を実施いたしました。

効果として試供品を外注に依頼するプロセスを省き、制作時間短縮に繋がりました。

デジタル技術の活用に伴い、顧客への回答期間が短縮され、付加価値の高いサービスを提供しています。

3. デジタル人材教育

(1) iPad活用によるリアルタイムのノウハウ共有

クラウドサービスのアプリに情報蓄積することにより、製品作成時の注意点や手順を統一化・共通化しています。

全従業員がAIやクラウドツールを活用して業務が行えるように、DX講習プログラムを作成し、デジタルリテラシーの高い人材を育成します。

DX推進の取り組み - 今後の情報発信

現在、当社では社内DX環境を整え迅速に課題解決を実現できる体制を整えるためにもものづくり戦略室にDX推進課を新設し、デジタル化に取り組んでいます。さらに重要な、トランスフォーメーションに関しては、全社で取り組むことでデジタル化との相乗効果が生まれやすい社内環境も整えています。

生産管理状況は可視化することで、製品における不具合等の早期発見、特定と課題解決により従来よりも品質の高い製品を提供できております。

AIロボットや3Dプリンタの導入は、生産性の向上によりできた時間を有効活用することで、人による高付加価値な生産を達成する事にも役立っております。

社内の業務変革を継続的に実現するためにも、デジタル人材を育成していくことにも注力しています。独自に考えたDX講習プログラムにより、全従業員がデジタル技術を活用し、デジタルリテラシーの高い人材を育成しています。

社内業務システムのデジタル化を推進することで「社員の幸福、お客様の満足、会社の繁栄を同時に達成すべく努力しそれにより社会的使命を果たす。」という経営理念のもと、各種メッキと塗装などの表面処理加工のプロとして、更に良い製品を提供し続けるためDX推進活動を取り組み続けます。

当社では、今後もDXの推進の状況につきまして、ホームページの「DX推進ビジョン」として、随時、公開して参ります。

2023年12月1日 策定
代表取締役 若山 健太郎